

12/10 移動なんでも相談会 矢本運動公園仮設住宅

大崎健康福祉友の会で被災者に衣類を配布

12月10日、“移動なんでも相談会”が、東松島市矢本運動公園仮設住宅で（300世帯）開催され、宮城民医連からは平尾良親医師、久中聖史歯科医師など合計21人がボランティア参加しました。

集会所での健康相談会のほか、看護師による仮設住宅の訪問。大崎健康福祉友の会では、友の会総会で、被災者のために何かできないかと話し合い、衣類をとどけることを決めました。この日、会員さん等から寄せられた大量の衣類を配布して、被災者の方から大変喜ばれました。



この大きさに丁度よいと思いますよ

野蒜にお住まいだった後藤純子さん（64）は、津波で家を流されて、何ひとつ残りませんでした。「仮設住宅では、ファンヒーターと電子カーペットを頂きましたが、それでも寒く、これから冬に向かってまだまだ寒くなりますので衣類の配布は大変助かります。」と話していました。

また60代の女性は、「8歳と4歳の孫がいるのですが、何も買ってあげられないので、とてもありがたいです」と。

被災した県民が安心して医療を受けられるように

天下みゆき県議一般質問で村井県政を追及



2011年12月9日午後2時9分 初めての一般質問に立つ天下みゆき県会議員

宮城県議選で初当選した天下みゆき県議（前宮城民医連事務局長）が、12月9日、11月定例会議で初めての一般質問に立ち、1、仮設住宅の改善など被災者の生活再建問題について 2、福祉・医療分野の震災復興について 3、宅地被害対策について 4、塩釜市北浜の防潮堤問題など、4つの大綱について村井嘉浩県政を追及した。

*在宅避難者については、県がきちんと調査して、在宅の避難者も行政のサービスが行き届くようにすること。

*雄勝病院など被災した公立病院について、縮小して無床診療所化するのではなく、地元の意見を聞きながら再建すること。また、メディカルメガバンク構想で889億円の予算が用意されているが、倫理面などで不明な点が多く、今後も監視していく。

*震災で親が無職になったり、失業給付が切れ、こどもが病院にかかれない状況を作らないため無料化の枠を広げられないかなど、1時間15分にもおよぶ論戦が繰り広げられた。（文責 神馬）

傍聴した職員は「堂々と発言していて、とても新人とは思えなかった。これからも弱い人の立場に立って頑張ってくれると思います」と。天下県議は「被災した県民が安心して医療を受けられるように」村井知事に通告して、初めての一般質問を終えた。

SENDAI 光のページェント

光の和、想いをひとつに

仙台の冬の風物詩、「SENDAI 光のページェント」が、12月2日から仙台市の定禅寺通で始まった。（期間は12月31日まで）

今年のテーマは「光の和、想いをひとつに」。震災の津波で55万個全ての電球を失ったが、新たに購入したり、全国各地から電球を借りるなどして開催にこぎつけた。

今年だけだろうか？ 白っぽい光とオレンジ色の光が混在していて趣があった。 広島から寄せられたという“折り鶴”の電飾には、「1日も早い復興への祈り」が込められている。

（撮影 神馬 12月5日18時37分）

